

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300743		
法人名	社会福祉法人心愛会		
事業所名	ハーモニーみどりヶ丘ソレイユ		
所在地	福島県郡山市緑ヶ丘東6丁目26番地1		
自己評価作成日	令和元年12月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成29年度に開所静かな住宅街に位置し近くには幼稚園、小学校、郵便局、コンビニエンスストア・派出所などがあり新築住宅空間で生活環境に恵まれています。職員全員が介護福祉士であり「お客様の自己決定の尊重」を基本としたサービスを行っています。併設されている小規模多機能や、敷地内に隣接しているサービス高齢者住宅のお客様との交流も多い施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域との関わりを大切にし、清掃・夏祭り・運動会等の地域行事へ積極的に利用者と参加している。事業所主催の夏祭りに地域の人も参加し、日常的に各種ボランティアや中・高校生ボランティアを受け入れ、利用者が地域との交流が持てるよう支援している。また、地域との災害時協定を結んでおり、地域の協力体制も構築されている。
 2. 職員は利用者一人ひとりがこれまで大切にしてきた事を継続出来るよう、生活スタイルに合わせた支援に努めており、利用者が落ち着いて、ゆったりと自分のペースで生活している。
 3. 事業所では職員の資質向上に努めており、業務を通じた指導や内部・外部研修の機会が多い。また、職員全員が介護福祉士を取得している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に法人理念の手帳が配布される。申し送り時法人理念、事業所理念唱和を実施している。また、法人で理念に基づいた実践の共有をおこなっており理念を浸透させている。	法人の理念と地域密着型サービスの意義を反映した事業所理念を玄関先に掲示し、毎日、申し送り時に唱和しながら職員間で共有している。利用者がこれまで築いた地域社会との関係を継続しながら、思いに沿った生活が送れるよう職員は笑顔で支援しており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等に参加したり、事業者で行う行事に地域の方が参加できるように運営推進会議、チラシなど活用し参加を呼びかけている。	地域行事(夏祭り・清掃活動・運動会等)に利用者と参加し、事業所の夏祭りにも地域から参加があり、積極的に交流が行われている。また、各種ボランティアや中学生や高校生ボランティアの受入も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや東部中田にある事業者と協力のもと年5回オレンジカフェを開催し、認知症の方への理解や支援の方法、予防についての講座を開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており運営状況や施設の問題解決に向けた助言をいただきサービスの向上に努めている。	運営推進会議は定期的で開催されている。会議では、事業所の取り組みや運営状況を報告し、課題等について意見や助言をいただき、サービス向上に活かしている。また、地域行事を教えてもらい、利用者と参加している。しかし、家族代表が退去となり、現在、家族代表の参加がみられない。	行政代表・地域代表・利用者・家族の代表が運営推進会議に参加することが求められており、早急に参加できる委員の選定をして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員を定期的に受け入れておりお客様の困りごと等共有解決に向けて努力している。行政とは随時相談情報を共有している。	行政担当者とは、介護保険の更新や各種の報告等を行う中で連携を図っている。また、疑問点・不明点等があれば質問や相談を行っており、事業所の実情を伝え協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催、法人のコンプライアンスルールにのっとった勉強会を開催また施設外の研修にも参加している。委員会で啓発ポスターを施設内に貼っており日頃からのケアについて見直すようにしている。	身体拘束廃止対策委員会は1カ月に1回開催し、年に2回職員全員が「虐待・不適切ケアチェックリスト」を基に振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。事業所内研修等により、身体拘束による弊害の理解を深めている。日中、玄関の鍵はかけていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修に参加。年2回アンケートを実施虐待が見過ごされていないか注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加。必要性がある場合活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明をする時不明な点がないようにしている。また、質問は随時対応し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議、家族様面会時に、ご利用者様には日常生活のかかわりの中でご意見ご要望をお聞きし運営に反映するように努めている。	日頃の関わりの中で利用者の意見や要望は把握している。家族会や面会の際に家族の意見を聞いたり、毎年実施している家族アンケートで家族の意見・苦情・要望等を把握している。結果を集計・分析し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われているカンファレンスや、職員会議、個別面談などを通して職員の意見要望を聞き運営や職場環境の改善に反映させている。	職員の意見や要望は職員会議・送り・個別相談等で把握しており、管理者が集約し具体的改善に活かされている。個別面談等もあり、連携も密に図り運営に関する意見・要望等も反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の取り組みを行い給料水準に反映させたり個別面談の際、意見、要望を聞き職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外研修に参加できる機会を作りスキルアップにつなげている。OJT制度があり新人職員が安心して働ける職場環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の交流会は年2回開催されている。内外研修を通して働く仲間との交流があり意見交換により仕事に対する意識の向上がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時本人様の困りごとをや、要望などをよく聞きケアプランに反映させ安心できるサービスを提供し信頼される関係作りができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時家族様の困りごとをや、要望などをよく聞きケアプランに反映させ安心できるサービスを提供し信頼される関係作りができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族様より聞き取りを行いその際最も必要とされるサービスを提供、安心した生活ができる内容を検討し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話がしやすい人間関係を築くように職員が積極的にコミュニケーションを図っている。また、その方にあった役割を持っていただき暮らしを共にする関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族参加の行事を通し情報共有を行いながらお客様の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、親戚、親族の面会等柔軟に受け入れている。	家族・友人・知人等の訪問を受けた時は、お茶を出し、ゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。また、家族の協力を得ながら外食や墓参り、自宅に行く等、関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気兼ねなく楽しい生活が送れるように気の合う方同士同じテーブルに座っていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時家族様、本人様に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様訪問時や、ご利用者様との日頃の会話より思いや意向を聞き取りサービス内容に反映させるように努めている。	毎日のケアの中で利用者の思いや意向を把握し、半年に1回、家族の意見や意向も確認している。また、日常生活の中での表情、行動や仕草から推測して汲み取り、利用者本位の支援となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、本人様より生活歴や趣味等の聞き取りや、日々の支援で知り得た情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントのほか日常の会話など職員間での情報交換等により一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別カンファレンス、また、必要時にサービス担当者会議を開催できる限りご利用者様を交え意見を聞くように努力している。	介護計画は利用者・家族の意向、身体状況の変化を把握し、カンファレンスを行い、職員の意見も反映し作成している。また、定期的に利用者の状況等の変化やモニタリング結果により計画が実態に合わない場合には、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録や、日誌に記録された情報を職員間で共有し、実践、介護計画の見直しに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の希望に沿った柔軟な支援ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	充実した援助内容ができるように地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望に沿った医師を受診している。受診は家族様に対応していただいている。訪問診療を受けているお客様の受診結果については電話で連絡をしている。	利用者のかかりつけ医への通院は家族が同行している。かかりつけ医には日頃の様子を書いた生活状況報告シートで伝え、受診結果は家族から聞き取ったり、直接医師と情報交換をしている。訪問診療を利用する人もおり、訪問診療結果は電話で家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活のなかで気になることなど看護師に相談、個々に適切な看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時看護サマリーを病院に提出して情報を提供。お見舞いに伺い状態の把握など、相談員と連携を取り病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に意向を確認している。重度化した場合医師を含め家族様と話す機会を持ち事業所のできることを家族様に理解していただいている。	事業所では「重度化した場合における(看取り)指針」を作成している。利用者が重度化した場合に、利用者・家族へ説明し、看取りの意向を確認し、看取り同意書を交わしている。看取りについての学習会も実施し対応できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で勉強会を行ったり消防署で開催している救命講習の参加して冷静に対応できるように訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画に沿って自主的訓練を行っている。町内会など緊急時の応援依頼を行っている。	消防署立会いの夜間想定総合避難訓練、地震想定避難訓練、勉強会、避難経路の確認、連絡訓練等を実施している。また、地域の防災訓練にも参加しており、地域と防災協定を結んでいる。災害発生時は利用者の個室から直接屋外に避難できる構造になっている。備蓄の準備もある。	火災・風水害・地震等様々な災害を想定した防災訓練について、夜間想定訓練を中心に実施し、職員全員が昼夜を問わず利用者を避難させられるよう数多く訓練して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員アンケートや職員会議等で常日頃から意識付けをしている。	不適切ケアチェックリストを基に振り返り、職員会議で虐待・不適切ケア等がないか確認している。意識付けのためのポスターを作成し事務室やキッチンに掲示している。コンプライアンスルールも事務室に貼り、職員全員で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者様とコミュニケーションを多く取り思いや希望を聞くように努力している。また、自分で選択していただけるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者様のペースや希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を依頼散髪で身だしなみを整えたりその人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の下ごしらえなどできる範囲内で協力していただいている。	利用者にも食材の皮むき等の協力してもらい、配食会社の食材を利用した献立となっているが、畑で採れた野菜等をプラスしている。蒸しパンづくり・芋煮会・外食ツアー・アイスを買いに外出したり、職員も一緒にテーブルを囲み食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントを通しご本人の能力に合わせた食事形態を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に合わせた支援を行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンに合わせた誘導、声掛けにより日中はトイレ利用、夜間は状況に合わせた対応をしている。	利用者の排泄パターンを把握し、排泄サインを見ながら出来るだけトイレへ誘導している。一人ひとりの状況を見ながら布パンツに変えたり、パットの大きさ等を見直している。適切な支援を目指してパットの選択や当て方を専門家を呼んで学習会も行った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握、ティタイム時等に水分ゼリーを提供。便秘解消のため腹部マッサージや繊維質の多い食品の提供など自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の状態、体調に配慮し本人の志向に合った入浴を支援している。	入浴計画表を基に支援しているが、利用者の希望で変更もある。浴槽は大きめの浴槽とリフト浴が設置されている。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫したり、入浴剤を入れ温泉風にして入浴促進につなげたり、しょうぶ湯等変り湯にして支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣にあった起床時間や就寝時間を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬錠ファイルが作成されている。わからない時はそれを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様、ご家族様にお聞きしたり生活していた中でのその方にあつた役割づくりや趣味を把握活動を通して気分転換を図っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を立て自然に触れる機会や地域での行事等に家族様に協力いただきながら参加している。	天気の良い日は中庭を散歩し、隣のサー高住の方と交流している。また、畑作業をして枝豆やカボチャを作っている。法人のバスで初詣・花見・森林浴ドライブに出かけたり、地域の夏祭りや小学校の運動会へ参加している。家族の協力を得て、通院や外食、自宅、墓参り等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため事業所への持ち込みをご遠慮いただいている。急に必要になったものや買い物などは事業所で立替対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間には行事等で作った作品など飾っている。リビングでもお客様の好む音楽などをながし居心地よく過ごせるように工夫している。	共用空間は広くて明るく天井が高く天井からの採光もある。空調の管理、衛生管理もなされて落ち着いた生活ができるよう配慮されている。壁面には季節の貼り絵が飾られまた玄関や中庭の植栽からも季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由に過ごせる空間と気の合う利用者同士過ごせるように席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家具、衣装ケース、写真、位牌等自宅より持参されている。本人や、家族様の希望に合わせて配置している。	居室の入口には利用者各自の個性的な飾りがある。部屋には整理タンス、位牌、テレビ等が持ち込まれている。居室は掃き出し窓があり災害時は直ぐ避難できる作りになっている。部屋全体に採光があり明るく居心地よく過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にネームプレートを張りつけ自分の部屋と認識できるようにしている。(トイレも同様)		